

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 藤川 くみ 所属: 青森県立青森若葉養護学校 記録日: 平成28年 2月22日
キーワード: 自己表現が苦手な生徒が自己実現を目指して
「病弱」 「Windows 搭載タブレット」 「気持ちの言語化・表出」 「マップ作り」

【対象生の情報】

○学年

高等部3年

○障害名

精神疾患、広汎性発達障害

○障害と困難の内容

コミュニケーション面において

- ・自分の考えや気持ちを表出することが苦手である。
- ・一人で悩みを抱え込むなどストレスへの対処が上手くできない。

学習面において

- ・カタカナや漢字をスムーズに音読することが難しい。
- ・ノートテイクをすることに精一杯で内容の理解までに至らない。
- ・ノートテイクが遅いことでクラスメイトを待たせていることに負い目を感じている。

※小学校から中学校までの数年間、不登校を経験しているため大きな学習空白がある。

【活動目的】

○当初のねらい

～卒業後の自己実現を目指して～

- 1 ストレスへの適切な対処法の獲得←気持ちの言語化・表出
- 2 語彙力の向上←実生活に役立つ題材を使って知識の習得
- 3 学習内容の理解、定着、向上←ノートテイクの負担軽減、考える時間の保障、暗記の仕方の工夫

※卒業後の自己実現を目指す上で、必要な力は「ストレスマネジメントの力」、「一般常識など生活に必要な学力」である。また卒業後は一般就労を希望している。

○実施期間

平成27年5月～平成28年2月

○実施者

藤川 くみ、渋谷 悟、教科担任

○実施者と対象生の関係

学級担任、対象生の5教科の担任、情報処理の教科担任

【活動内容と対象生の変化】

○対象生の事前の状況

コミュニケーション面において

- ・自分の考えや気持ちを表出するのが苦手であり、感想文を書くことに抵抗を示していたり、相手からたずねられると言葉に詰まって泣き出したりすることがある。
- ・いつでも誰にでも笑顔で接したり、誰にも相談できずに一人で抱え込んだりしてしまいストレスを溜め込むことがある。その結果ストレスへの対処が上手くできずに不眠や頭痛を訴える、泣く、無気力に陥るなどの体調不良になりやすい。

学習面において

- ・教科書等の音読の場面では、カタカナや小学3年生以上の漢字をスムーズに読めないことが多い。語彙力の不足からひらがなもスムーズに読むことが難しい場合がある。
- ・丁寧な字で記入することができるが、ノートテイクをすることに精一杯で、書いた内容を理解するまではなかなかできていない。またノートテイクが遅いことで、クラスメイトを待たせていることに負い目を感じている。
- ・昨年度実施したURAWSS（小学生の読み書き能力検査）の結果においても、読みの支援と書字の支援が必要であることが明らかになっている。
- ・情報処理検定で資格を取得するなど、パソコンを使った授業には特に意欲的に取り組むことができる。表計算3級や文書デザイン3級は取得することができた。上級の合格を目指しているが、漢字がスムーズに読めずに入力することに時間を要するため、取得が難しい。

○活動の具体的内容

1 ストレスへの適切な対処法の獲得を目指して

(1) 学習・生活記録“Daily Life”を使った学級担任とのやりとり

① 4月～6月中旬

体や心の元気度、起床や就寝時刻、学習時間、自分の気持ちや出来事などについて記入する学習・生活記録“Daily Life”を帰宅後に手書きで行い、ファイルに綴じて毎朝提出するようにしていた。

様式は「Microsoft Word」で学級担任が作成したものを使用した。気分が落ち込み、自分の居場所がないという内容を書いてきたこともあり、そのようなときには、個別に話を聞く時間を担任から設け、心理的な安定を図ることができたこともあった。漢字を調べずに記入した際には、誤った漢字を使用したり、ほぼひらがなで書いたりすることが多かった。

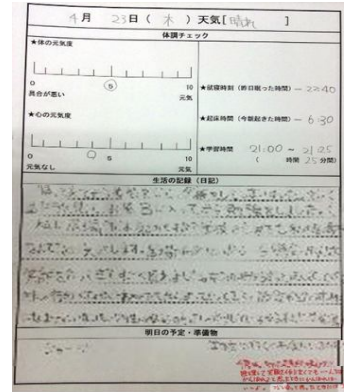


図1 4月23日のDaily Life

② 6月下旬～11月下旬

手書きでの記入の際、漢字を調べながら行い、相当時間がかかっていたことがわかった。書字の負担軽減を図るため、手書きから「Microsoft Word」や「OneDrive」のアプリを使い、データでのやり取りをするに変更した。タブレットでの入力に変更したところ誤字が見られなくなった。また、漢字を調べながら書くことが少なくなったことで、伝えたいことをストレスなく書くことができるようになったようである。さらに休日や長期休業中にも互いにやりとりが可能となり、指導者のコメントに対してもさらに本人からの書き込みが見られたこともある。

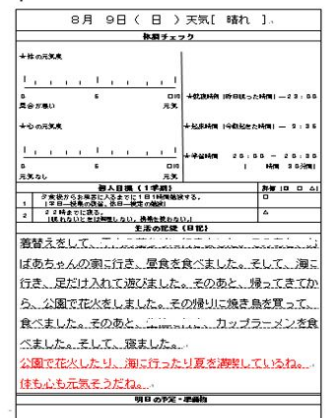


図2 8月9日のDaily Life

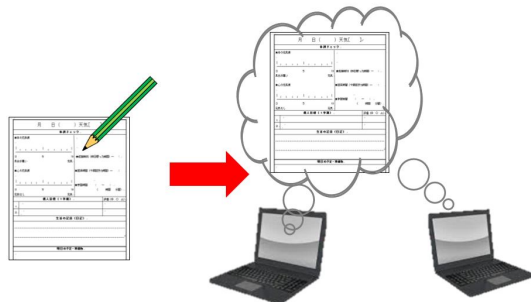


図3 手書きからタブレットでのやり取りへの変更イメージ図



(2) 産業現場等における実習日誌を使った学級担任とのやりとり

夏季休業中に個別に5日間、一般企業での実習を行った。毎日記入する実習日誌も“Daily Life”と同様に「OneDrive」を利用してデータを共有するようにした。実習日誌の様式は「Microsoft Word」で作成したものを使用した。帰宅後の電話連絡時には、対象生が電話では話さなかった体調不良や職場の人に褒められて嬉しかったことなどを具体的に実習日誌に記入していたため、実習日誌を通して担任から具体的なアドバイスやコメントを記入するようになった。本人と連絡を密に取ることで心理的な安定を図りながら実習を進めることができた。

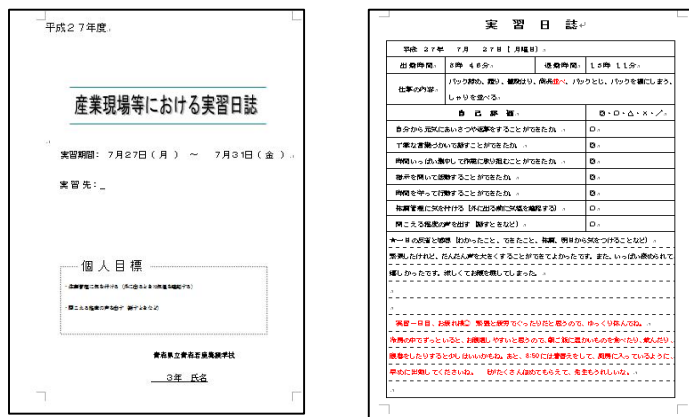


図4 実習日誌



(3) メールでの学級担任とのやりとり

校外学習の前日に持参するカバンの大きさが気になり、また実習の前日に服装が気になり学級担任と「メール」でやりとりをしたことがあった。また、市内のバスを利用して単独下校していたが、6月末から不審者を見かけて不安になることがあったため学級担任と学部主任を中心に本人に帯同して下校指導を行った。その後も対象生が安心して下校することができる日まで帰宅した後に報告のメールを担当者に送信するようにしていた。



2 語彙力向上を目指して

対象生は、「電車の脱線事故」の「脱線」を「ガッセン」と言うなど聞き間違っていて覚えている言葉が多いなど、語彙力が不足している。そこで実生活に役立つ題材を使いながら、知識の習得が必要と考え、ニュースを正しく理解し、自分の考えを持つことができるように“気になるニュースのノート”作りを開始した。

“気になるニュースのノート”とは、漢字の振り仮名や語句の説明、動画があり理解しやすい「NEWS WEB EASY」などのサイトで正しくニュースを理解し、その上で「OneNote」を使って、ニュースを貼り付け、自分の感想を書くようにしたものである。このように世の中の出来事を知るだけでなく、多くの語句や漢字に触れる機会を設けた。夏季休業中の課題として開始し、2学期も家庭学習の一環として継続して行った。

2学期に行った面接練習の際、最近のニュースについてたずねられても、言葉に詰まることなく話すことができていた。



NEWS WEB EASYなどのニュース

ニュースを添付し、感想を記入するノート



図5 気になるニュースのノート

3 学習内容の理解、定着、向上を目指して

対象生は上記で述べたようにノートテイクに困難がある。その他、暗記することが多い社会科に苦手意識を持っている。そこでノートテイクの負担軽減、暗記の仕方の工夫等が必要と考え次のような取り組みを行った。

- (1) 書字の負担軽減を図るために教科担任の協力を得ながら社会科や理科など板書量が多い教科では、板書をカメラアプリで撮影し、家でノートテイクを行うようにした。授業中は授業者の話聞くことに重点を置いた。

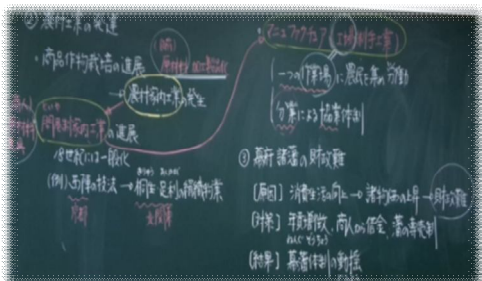


図6 日本史の板書

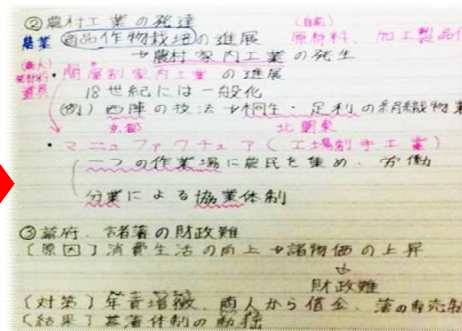


図7 本人が写真を見て写した日本史のノート



(2) 期末テスト対策として地理の授業の中では、キーワードとなるような語句を関連づけて記憶することができるよう「M8!」のアプリを使って、マップ作りに取り組んだ。授業だけでなく家庭学習においても語句を書き足して学習する様子が見られた。

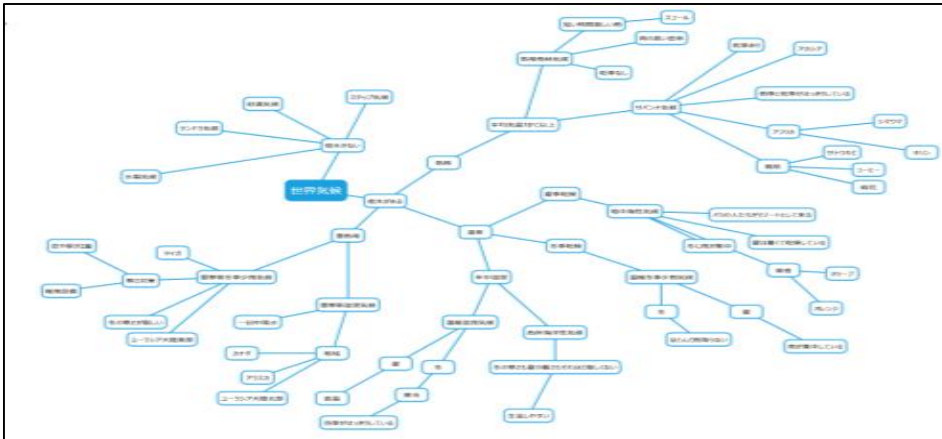


図8 世界気候について生徒が作成したマップ



○対象生の事後の変化

夏季休業中に個別に実施した産業現場等における実習後、事後指導の前に、自ら実習に関するマップを作り、さらには礼状の下書きまでも家庭で作成する様子が見られた。指導者からの指示を受けて礼状等を作っていた1学期の実習とは異なり、このように自分からタブレット端末をツールとして、活用することができるようになってきた。

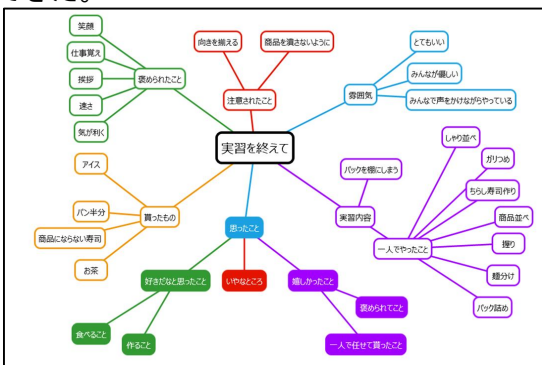


図9 実習を終えてのマップ

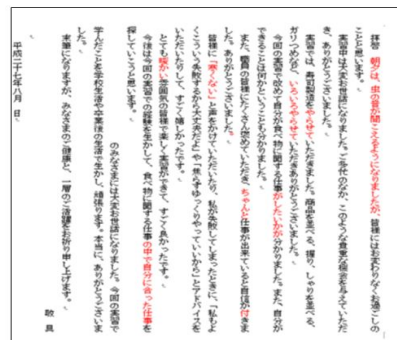


図10 本人のタブレット端末で作成した下書き
(朱書きは指導者が指導をしたところ)



図11 下書きを見ながら礼状の清書を書いている様子

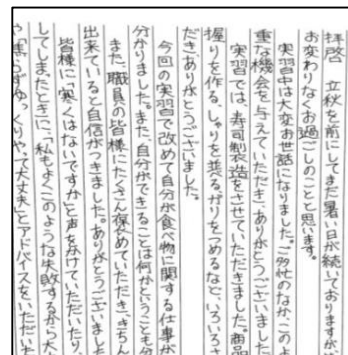


図12 清書した礼状

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

コミュニケーション面において

- ・タブレット端末やアプリを自己選択、自己決定して使用することができるようになった。
- ・少しずつ自分の気持ちや考えなどを伝えることができるようになってきた。
- しかし、まだ自分から誰にも相談できずに一人で抱え込み、体調不良になることもある。そのため現在も、過度のストレスを溜め込む前にメールやマッピングアプリなどの手段を使って、自分から思いを整理し、発信していくことがとても大切であることを担任は対象生に継続して伝えている。

学習面において

- ・正しく読める漢字が増えたことでパソコン入力の精度が上がった。
- ・語句の読みと意味を一致するなど正しく理解できた語句が増えてきた。
- ・タブレット端末を使った学習の方が生徒の困難さを軽減できている。

○エビデンス

コミュニケーション面において

- ・夏季休業中の実習後のマップ作り以後、企業見学会や遠足など様々な行事後の場面でマップを作成し思考の整理や気持ちの表出をするようになった。その作成したマップをもとに文章を自ら作成することもできるようになった。
- ・生徒会活動や文化祭の学部発表、全体ゲームなど生徒同士の話し合い場面では、タブレット端末の利用に抵抗を示さず、話し合いでメモアプリを使い、みんなの意見を付箋に書き出して進行するなどして活動を進めていた。用途に応じてアプリの使い分けもしていた。本人曰く、「MemoTogo」は話し合いの場面で、「M8!」は自分の思考整理等の場面で使い分けしているとのことだった。

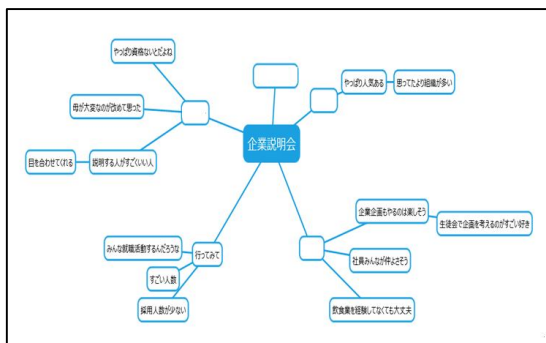


図 13 企業見学会後のマップ

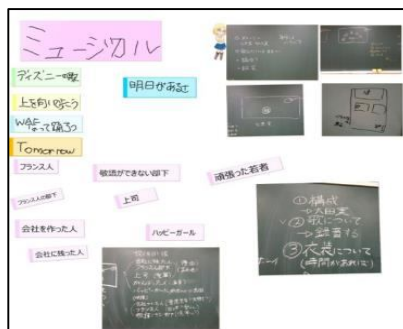


図 14 文化祭の学部発表の話し合いマップ



- ・2学期の進路指導の際には、自分や進路相談についてのマップ作りを行った。1学期の進路相談時には、進路のことなどたずねられると、言葉に詰まり泣くことが多かった。しかしマップを作ってから進路相談や面接練習を行ったところ、以前のように言葉に詰まって泣くことがあまり見られなくなった。自分についてのマップを作成することに初めは抵抗があったようだが、客観的に自分のことを知っていくことが自己実現に向けての第一歩になることがわかった。

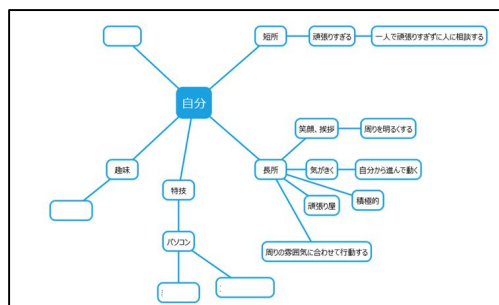


図 15 自分についてのマップ

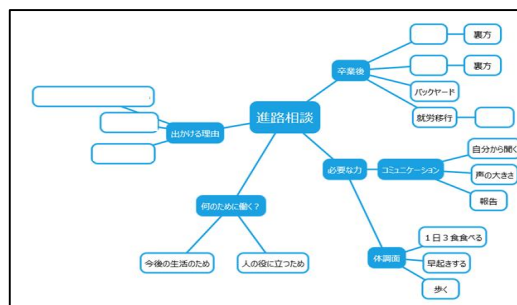


図 16 進路相談に向けてのマップ

- ・11月下旬ごろから体調不良のため登校が不安定になり欠席が続いた。その際も本人と連絡を取り、いつでもつながっている状態を保つように欠席時にも数回担任から何気ない会話のメールを送信した。それらのメールに対して、対象生は一言だが返信することもあった。3学期に入ると、少しずつ体調が回復し、

短い時間であるが登校できるようになってきた。登校する前に「今日は2、3校時の予定で行きたいと思います」や「〇〇が不安で〇〇の授業には参加できなさそうですが、〇〇には出ることができると思います」などと生徒自らが気持ちや考えをメールで担任に発信してくるようになった。

学習面において

- ・日本語ワープロ検定速度10分間の課題では1年次のとときと比べ、103文字の増加が見られた。また表計算2級の資格も取得することができた。
- ・タブレット利用についての感想を対象生にたずねたところ、本人からは「頭の中が整理しやすくなった」「〇〇君を待たせなくなって気が楽になった」などの声が聞かれた。また、手書きとタブレットの違いやタブレットの感想についてマップを作成し、それらの作成したマップからタブレット端末を使った学習の方が対象生の困難を軽減できていると思われる。

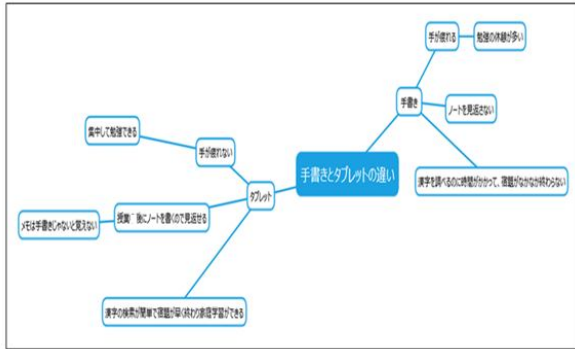


図 17 手書きとタブレットの違いについてのマップ

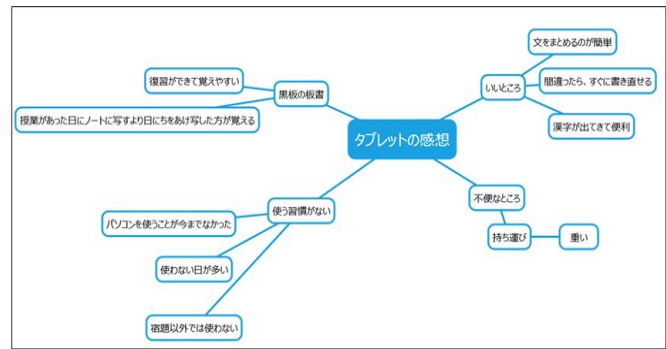


図 18 タブレットの感想についてのマップ

【今後に向けて】

上記で述べたように少しずつ自己理解ができてきているものの、まだ自己実現に向けての課題がある。卒業後すぐには難しいかもしれないが、自分から誰かに相談したり、気持ちを伝えたりすることができるようになることで就労を含めた自立へつながるのではないかとと思われる。その際強みになった気持ちの言語化、表出する手法を対象生自身が卒業後の生活に生かしていくことが必要である。

また学校としても進路先などの関係機関には、対象生とのやりとりにより有効であったと思われる日誌やメール、マップ作りなど具体的な支援方法についてしっかりと情報を伝えるなど、対象生がスムーズに社会生活に移行できるように指導、支援に当たってほしい。